

ワークシートI ※ 赤字は生徒の解答例、青字は参考事項

世界史探究 単元シート11「第4部 第6章 戦後の国際秩序と冷戦 第5部 第1章 冷戦の展開と平和の模索」
3年()組 ()番 氏名()

1 単元を貫く問いを考えよう

冷戦の開始 アジアの独立 日本と第三世界の形成 冷戦の展開 多極化の始まり 米中の接近 冷戦の終結 アメリカと中東 P305～326

学習課題XI 冷戦構造が崩壊に至る画期はどこにあるか？ (画期：前の時代とその後の時代を分ける転換点のこと)

冷戦とは
歴史総合・公共などの学習を踏まえ、現時点で冷戦について分かっていることを記述させる。
画期の予想
授業を行う中で、冷戦崩壊の画期となりそうな出来事を見つけたら記述しておくように指導する。

評価規準

A	冷戦構造が崩壊に至った転換点を示し、そう考えるに至った理由を歴史的事実・歴史的経緯を踏まえて説明している	B	冷戦構造が崩壊に至った転換点を示している。
---	--	---	-----------------------

2 学習を記録しよう(その日に学んだ項目・理解度・コメント)

授業日	内容	授業日	内容
10月12日	冷戦の開始		
理解度	4・3・2・1	理解度	4・3・2・1
コメント(2文程度)	(例)国連ができたが、常任理事国が拒否権をもち、それが国連の機能不全につながり、またソ連の共産主義が拡大した。	コメント(2文程度)	左側と同様に、1時間ごとに理解した内容を記述する。

4:よく分かった 3:分かった 2:あまり分からなかった 1:分からなかった

4:よく分かった 3:分かった 2:あまり分からなかった 1:分からなかった

授業日	内容	授業日	内容
理解度	4・3・2・1	理解度	4・3・2・1
コメント(2文程度)		コメント(2文程度)	

4:よく分かった 3:分かった 2:あまり分からなかった 1:分からなかった

4:よく分かった 3:分かった 2:あまり分からなかった 1:分からなかった

3 単元を貫く問いを完成させよう 学習記録から画期の候補を探してみよう、その後グループで意見を交換しよう。

学習課題XI 冷戦構造が崩壊に至る画期はどこにあるか？ (画期：前の時代とその後の時代を分ける転換点のこと)

また、あなたは冷戦後の世界に名前を付けるとしたら、「〇〇時代」と名付けるか？

画期
①フジシヨフのスターリン批判から「雪どけ」 ③ソ連の停滞(経済不振や東欧の自由化) ⑤西ヨーロッパの復興
②アメリカの揺らぎ(ベトナム戦争・公民権運動) ④ゴルバチョフによるペレストロイカ ⑥アジアやアフリカの独立(第三勢力の台頭)
冷戦後の世界の名称
・「多極化時代」「第三世界時代」②③⑤⑥ ・「自由国家時代」「社会主義崩壊時代」①④
・「グローバル時代」「国家発展時代」⑤⑥ ・「新冷戦時代」アメリカとロシア・中国の対立

評価規準

A	冷戦構造が崩壊に至った転換点を示し、冷戦の構造と歴史的事実を踏まえながらその理由について説明している。	B	冷戦構造が崩壊に至った転換点を示し、その理由について説明している。
---	---	---	-----------------------------------

ワークシート2 ※ 赤字は生徒の解答例、青色は参考事項

第5部 1章 冷戦の展開と平和の模索

授業テーマ 12-7 公民権運動は黒人差別の撤廃に貢献したか？（探究）（No. 104）P184～185

3年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

◎探究テーマ

1863年、リンカン大統領により奴隷解放宣言が発表され、南北戦争後には奴隷制の禁止が憲法修正第13条で奴隷制の禁止が明文化された。それでもなお、アメリカの南部を中心に黒人差別は根強く残っていた。1950～60年代のアメリカでは、さまざまな方法で公民権運動（黒人差別撤廃運動）が展開され、1964年の公民権法の制定へとつながっていった。公民権法では、人種による差別を明確に否定した。

今回は多種多様な公民権運動を資料から読み取り、公民権法の制定や黒人差別の撤廃により効果的だったものを選択する。また、現代の差別問題と関連させながらその限界について考えていく。

1 黒人差別の実際 【10分】 教師より黒人差別の実際について説明する。

(1) ジム=クロウ法

- ・南部を中心に見られた法律規則や社会基準の総称
- ・「ジム=クロウ」とは演劇で、白人俳優が無知で役立たない黒人を演じた
- ・州や郡レベルでの人種隔離を行う条例・規則：公立学校や電車・バスなどの公共交通機関、レストランなど
- ・明文化されないタブー：白人に対する敬称使用（ミスター（ミス）、イエス、サー（マム））
白人が道を通るときは横に避ける、白人女性と目を合わせない
→ タブーを破った黒人に対するリンチ

(2) 「分離しても平等」(separate but equal)

- ・最高裁が、各州での鉄道車両や公共施設で人種による分離を認める
- ・黒人用施設と白人用施設の質の格差：白人用の学校の予算は黒人用の学校の予算の数倍
鉄道における白人専用車両と黒人専用車両の格差

2 グループワーク 1

(1) グループ分け 【5分】 4人グループに分け、役割を割り振る。

あなたのグループは（ ）班（ ）

役割1（ **タブレット** ） 役割2（ **発表** ） 役割3（ **司会** ） 役割4（ **書記** ）

名前（ ） 名前（ ） 名前（ ） 名前（ ）

(2) 公民権運動の実例 【15分】

資料1を参考に、各グループで1名ずつ公民権運動の実例A～Dをそれぞれ読み取り、まとめよう。その後、グループで内容を共有しよう。

運動	内容
A	バス=ボイコット運動 アラバマ州モンゴメリーで黒人が自由に座席に座れないことに抗議して、黒人がバスをボイコットした。人々はバスの代わりに、徒歩や黒人運転手によるタクシーや車の乗り合いでしのいだ。こうした努力の結果、最高裁でバスにおける人種隔離撤廃を勝ち取った。
B	セントラル高校への入学 アーカンソー州リトルロックで、白人専用となっていた高校に黒人生徒が初めて入学した。しかし、人種統合に反対する州知事や白人生徒の妨害を受けたが、連邦軍の護衛を受けて教育を受ける権利を勝ち取った。
C	ランチカウンターでのシット・イン運動 ノースカロライナ州グリーンズボローで黒人大学生が白人専用のランチカウンターで座り込みを行う。黒人に物を売るがサービスは提供しないという矛盾を付き、同趣旨の運動にも刺激を与える。最終的にランチカウンターでの差別撤廃を達成した。

D	「フリーダム・ライダーズ」州をまたぐバスを利用して北部から差別の激しい深南部へと乗り込む。アラバマ州アニストンではKKKのメンバーによる襲撃を受ける。襲撃の様子がテレビで放映され、ケネディ大統領の公民権法の提出につながった。
---	--

(3) どの運動に参加するか【10分】

自分たちが差別を受けている黒人の立場だったらどの行動に参加しますか？それらの行動が黒人差別の撤廃にどれだけ効果的があるか考え選択しよう。

運動	理由
	<p>A～Dを選択し、理由を記述する。</p> <p><解答例></p> <p>A：「分離」しているが使用できる座席が「平等」でないことを示し、黒人が白人なら当たり前の権利を認められていないことを示したから。また、黒人が団結し、差別撤廃の原動力となった。</p> <p>C：シット・インは想像力次第でどこでも行うことができる運動であった。そのため、図書館や娯楽施設でも同様の運動が行われ、効果が高かったと考えられる。</p>

(4) 発表【10分】

ロイロノートの共有ノートにまとめて提出し、全体に発表しよう。他の班の発表を記録しておこう。

<メモ> 共有ノートの画面を使用して4～5グループ程度で発表させる。理由が明確なものや要点を押さえている発表などを取り上げ、まとめの記述のヒントとなるようにする。ここまでが1時間目。

3 グループワーク 2

(1) 公民権法の成立とその後【10分】公民権運動のその後と「Black Lives Matter」運動について説明する。

- ・ワシントン大行進（1963年）：キング牧師による演説、黒人と白人が並んでの行進
- ・なおも続く悲劇：バプテスト教会の爆破、ケネディ暗殺
- ・公民権法の成立：ジョンソンの演説

(2) 「Black Lives Matter」運動

- ・ジョージ・フロイドの殺害事件
- ・レイシャル・プロファイリング
- ・市民権の証明
- ・住居をめぐる差別
- ・「黒人の命は大切」の意味

(3) 現代の課題との関わり【15分】

公民権法が制定されて60年が経過してもなお、黒人差別は無くなってはいない。黒人差別を禁止する法制度が整備されてもなぜ差別はなくなるのか考えよう。それをグループで共有してみよう。

<p>個人の考え</p> <p><考えられる解答例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・法的な差別がなくなっても差別意識が残っている ・直接的な差別はないが、これまでの歴史で生じた権利の行使や経済上の格差が残っている
<p>班で出た意見</p>

確たる解答がある問題ではないため、各自の意見を尊重しながら意見交換できるようにする。そのため、全体での共有は行わず班内で公民権法の限界について話し合うのみに留める。

4 まとめと振り返り 【20分】

グループ学習での学びを参考に、学習課題に個人で解答しよう。

(1) 学習課題「黒人差別撤廃のためにどんな運動が有効であったか？また、その限界はどこにあったか？」

予想される解答例 (A評価の例)

黒人差別が撤廃されるためには、バス・ボイコット運動やシット・イン運動などの人間として当たり前の権利を、黒人が持っていないことを示す必要があった。黒人たちは自分の権利をさまざまなイマジネーションあふれる行動により獲得していった。また、メディアを通してアメリカの社会全体に黒人差別の過酷さが伝わり、ケネディ大統領の公民権法の提出などの動きにつながった。

しかし、BLM 運動に代表されるように、法整備だけでは黒人差別が完全に撤廃されたとは言えない。差別意識が残っていることや、直接的でない権利の行使や経済上の差別が現実にはある。

(2) 振り返りを記入しよう。

(a)探究して気づいたこと・グループ学習を行う上で意識したこと、(b)公民権運動の成果や課題を参考にすることで得られた現代の差別問題の理解や解決に必要な視点について振り返りなさい。自分で(a)(b)の章立てを行うこと。

グループ学習を行う中で気づいた点や意識した点を言語化させることにより、主体的に自分の力で粘り強く考えようとしていたかを読み取る。

また、公民権運動と現代の差別問題を関連させることで、学習したことを整理し、現代に活用しようとしているかを測る。

評価規準

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	公民権運動に関する複数の資料を活用し、有効であった点と課題について論理的に説明している。	資料の読解やグループ学習に主体的に取り組み、現代の課題をこれまでの学習と関連させながら解決のために必要な視点を見出そうとしている。
B	公民権運動に関する資料を活用し、有効であった点と課題について考察している。	資料の読解やグループ学習に主体的に取り組み、現代の課題をこれまでの学習と関連させながら考えている。

※ 思考・判断・表現 → 4(1)学習課題、主体的 → 1～3、4(2)を元に評価する。

公民権運動 資料 1

実例A～Dは1950～60年代に行われた公民権運動に関する資料である。上段に資料からの引用、下段に資料の説明を加えてある。(一部引用箇所に対し、資料作成者が補った部分がある。)

実例 A

列車での差別はひどいものであったが、黒人と白人が一つの空間を共有しなければならない南部の路面電車とバスでは、状況はさらにひどいものだった。そして、彼らは毎日、仕事に行くときにそれを味わっていたのだ。……実際に(アラバマ州)モンゴメリーの市バスの前から十席は、たとえ白人の乗客がいなくても、白人専用として扱われ、どんな状況だろうとそこに黒人がすわることは許されなかった。うしろの十席は、……ここは黒人専用であった。それぞれ前とうしろの十席が埋まると、「中央の十六席」が問題になる。これらの座席をどう「調節」するかはバスの運転手に任されていたのだ。鍵になるのはバス運転手の態度であった。……

モンゴメリー市の近くで育ったローザ＝パークスは、小学生のころ、黒人の子どもならほとんど誰でもそうだったように、人生について二つのことを学んだ。まず第一に、白人が自分たち黒人に何か悪いことをしても、「口答え」や仕返しをすれば危険な目にあうので、自分のまわりの白人には注意しなくてはならないということ。白人に間違っただけを取ったり、間違っただけをすれば——たとえそれが正当であっても——黒人は殴られ、リンチにあうこともあったのだ。……

(1955年12月1日の木曜日の仕事からの帰宅時、)バスの中央には空いている席があったので、彼女はそこにすわった。次の停留所で数人の白人が乗って来た。前方の白人用の座席はそれでいっぱいになり、一人は立ったままだった。運転手が振り向き、白人の一人が立っているのに気づくと、彼はパークスと三人の黒人の乗客を見て、「その前の席を空けてくれ」と言った。しかし四人とも動かなかった。彼はもう一度「立って席を譲ったほうがいいぞ」と言った。他の三人はしぶしぶ立ち上がったが、パークスは座ったまま窓側の席にずれて、立っている白人男性が座れるようにした。……その運転手は彼女がまだ座っているのを見て、立つつもりがあるのかどうか訪ねた。彼女は「いいえ」と答えた。「では逮捕してもらおう」と彼は言った。「どうぞお好きに」彼女は静かに答えた。

バスに乗るローザ＝パークス
の写真

ローザ＝パークスの逮捕に対し、人種差別を目指す団体やアラバマ州立大学が中心となって12月5日の市バス一日ボイコットが呼びかけられた。モンゴメリー市のバスの乗客の4分の3は黒人であった。バスの代わりに黒人たちは会社や学校まで徒歩で通ったほか、黒人運転手によるタクシーは低料金で運行し、車を持つ黒人は積極的にバスに乗らない人々の送迎に協力した。バス会社はそれでも人種隔離を継続し、白人警官は正規料金で走らないタクシーを取り締まるなどして抵抗したが、1956年11月13日、最高裁でバスにおける人種隔離撤廃が認められた。12月21日はローザ＝パークスら運動の指導者はついにバスの前方に座ることができた。しかし、法整備後も運動指導者の自宅に爆弾が投げ込まれる事件が発生するなど危険が高まったため、ローザ＝パークスは夫とともにアラバマ州を離れ、北部のミシガン州デトロイトに移住した。

事例 B

1957年9月4日、アーカンソー州リトルロックで、15歳のエリザベス＝エクフォードは新しい高校に行く最初の日のために、特別に作ってもらった糊のりのきいた黒と白のドレスを着て、公共のバスに乗った。しかしバスを降りると、他の黒人生徒の姿は見え目に入ってきたのは白人の群集であった。……彼女は後ろから白人が口汚く叫んでいるのが聞こえた。「ニガー、自分の学校へ行け。俺たちのよりも立派な学校があるんだろ！」「ニガー、アフリカに帰れ！」

カメラマンのウィル＝カウンツは、怒り狂ったヘイゼル＝ブライアンという白人の少女が、友だちのサミー＝ディーン＝パーカーと一緒にエリザベスのすぐうしろを追う群集の先頭に立ち、憎しみを込めて彼女に叫んでいる瞬間をとらえた。エリザベスの背中に食いつこうとするかのように大きく口を開けたこの白人少女は、群集全体の怒りを代表しているように見える、この一枚の写真は人種差別主義者が黒人に対して抱く憎悪の象徴になった。

エリザベスをにらみつける

ヘイゼルの写真

色の濃いサングラスで目を隠したエリザベスはなんとか自分を落ち着かせ、学校の入口に向かって歩き始めた。しかし学校は州兵により包囲されていた。……州知事が学校における強制的な人種統合を阻止するために出動を命じたのである。それは裁判所の判決に対する公然たる反抗だった。……新学期が始まったその日、結局、黒人の生徒は一人もセントラル高校に入ることが許されなかった。…

リトルロックは、どこから考えても、人種差別に関して緊迫した事態が起きるような場所ではなかった。人種問題に関してはどちらかといえば進歩的な態度を取ってきたアーカンソー州は、1940年代半ばから黒人が社会に進出していった。警察官には黒人がいたし、少数だが黒人と白人が隣どうして平和に暮らしている地域もあった。他の州、特にミシシッピ州などとは対照的に、投票権を持つすべての黒人の約30%が選挙人登録をしており、図書館、公園、公共バスにおける人種差別もなかった。したがってアーカンソー州では、ごく自然に次の段階は学校での差別撤廃だと思われていた。

事実1954年5月20日、……1年後には学校における差別撤廃を段階的に行い、1963年までには人種統合を実現するという市の計画をリトルロックの連邦裁判所が承認した。差別撤廃はまず教師や生徒の数が比較的少ない高校から始まり、徐々に小学校へと広げていくことになっていた。そして1957年9月、最初の黒人生徒たちが白人だけのセントラル高校に入学することになった。

その後、黒人生徒たちは何とか学校に通うことができるようになったが、学校外では人種統合に反対する暴徒が人種統合に反対するプラカードを持って大声で罵声を浴びせており、学校内では人種差別的な生徒からの暴力・暴言・嫌がらせが続いた。州知事が人種統合を命じる裁判所の決定を無視し続けたため、アイゼンハワー大統領は黒人生徒を護衛するために連邦軍を派遣した。また、州兵を知事ではなく連邦政府の支配下に置き、黒人生徒を学校に入れなかったためではなく、彼らをキャンパス内で護衛するように命じた。当時始まったテレビ放送では、数人の黒人生徒の周囲を取り囲む怒り狂った白人の大人たちの様子が放映された。嫌がらせに耐えながら彼らのうち8人が学校を続け、一人は1957年5月にセントラル高校を卒業する最初の黒人生徒となった。卒業式では白人の一人ひとりが卒業証書を受け取るたびに会場から拍手が起こったが、彼の名前が呼ばれたとき、拍手は起きなかった。

事例 C

1960年2月1日、黒人専用の大学、ノースカロライナ農工大学の4人の1年生がノースカロライナ州グリーンズボローの中心にある大型雑貨チェーン店、ウルワースに入って行った。彼らはその前日の夜、人種差別をなんとかしたいと話しかけた結果、自分たちで行動を起こすしかないという結論に達したのだ。ジョゼフ＝マクニールは店に入ると、最初に練り歯磨きを買った。彼の17歳の友人フランクリン＝マッケインは学用品をいくつか買った。…彼らはランチカウンターに座ってコーヒーを注文した。白人のウェイトレスの対応はこうだった、「悪いけど、ここじゃ黒人の方には出せないのよ」。

マッケインは南部に広まっているジム・クロウ法の大きな矛盾の一つを指摘した。つまり、店員は物を売るとき、黒人を客として扱い、金を「取る」が、白人の客も座っているランチカウンターでは彼らを客として扱わないということだ。「なぜ？2フィート向こうのレジカウンターでは売ってくれたじゃないですか。一つのカウンターでは客として扱い、もう一つのカウンターではそれができないって言うんですか？じゃ、いっそ全部のカウンターでわたしに物を売のをやめたらどうです」…

2月3日、水曜日、4人が再びカウンターに座ったときには、約20人の学生が一緒だった。午前中の半ばにやって来た彼らは一日中座っていたが、この日もコーヒーを出されることはなかった。

シット・イン運動が始まった。ほどなく、グリーンズボローの他の安売り雑貨店でも同じような学生の姿が見られた。毎日、開店時間になると、黒人学生がカウンターの空いている席を埋め、そこから丸一日、客として扱われるのを待ち、閉店時間になると去って行った。…店の経営者たちは、カウンターでのサービスを

完全にやめてしまう者から、シット・インの参加者を「不法侵入」で逮捕させる者まで、さまざまな手段でシット・インを防ごうと躍起になっていた。多くの野次馬が集まり、カウンターの学生にケチャップ、砂糖、卵などをかけることも一度や二度ではなかった。夜には電話で、殺してやると脅迫される者もいた。

ノースカロライナでのシット・インをする
黒人学生たちの写真

シット・イン運動はみるみるうちに拡大し、抗議方法や嫌がらせを受けたときに重大な怪我からどのように身を守るかについてのワークショップも開かれるほどであった。2月の終わりまでに15の都市で54回行われ、その年の終わりまでに約5万人が参加した。メディアはランチカウンターに静かに座る堂々とした態度の黒人学生を紹介し、白人の野次馬やごろつきたちは醜態をさらした。学生達は親たちと違い、職を失う心配が無かったため、留置所に入れられることも進んで受け入れた。シット・イン運動が刺激となり、公立図書館での差別に反対する「リード・イン」、娯楽施設の差別に反対する「ボール・イン」や「スケート・イン」なども類似の運動も始まった。客の多くが黒人であったグリーンズボローや南部の都市は経済的な打撃を受け、ついに黒人の要求を受け入れ、ランチカウンターでの人種差別を撤廃した。

事例 D

(アラバマ州) アニストンでの最初の公民権運動は憲法により保障された複数の州を結ぶ州際交通機関での人種統合を実現させようとした「フリーダム・ライド(自由のための乗車)」と呼ばれる試みで、戦いの「前線」は移動する長距離バスであった。…(1961年)5月14日の母の日、参加者は二手に分かれて、ジョージア州アトランタからアラバマ州バーミングハムへ向かった。一つのグループはグレイハウンド・バスで、もう一つのグループはトレイルウェイ・バスで、1時間の差をつけて出発した。

5人の一般乗客、7人のフリーダム・ライダー、そして2人のジャーナリストを乗せたグレイハウンドは午前11時に出発した。午後1時ごろ、バスは州境を通過し、アラバマ州アニストンの町へと向かった。その町はアラバマ州のなかでも厳しい人種差別ともっとも攻撃的で暴力的なKKKのメンバーがいることで知られていた。バスが町に入るや、乗客は歩道に並んでいる人々の存在に気づいた。それは深南部の日曜の午後に見られる光景としては異様であり、全員がバスを見ているようだった。今にも何か起きそうな気配が町全体に漂っていた。ターミナルに着くと、そこは閉鎖されており、参加者の不安はさらに大きな物になった。…すると突然、アニストンのKKKのリーダーに率いられた50人ほどの白人暴徒が雄叫びを上げながらどこからともなく現れた。警官の姿はまったく見当たらない。一般乗客のうち2人は、実はアラバマ・ハイウェイ・パトロールの覆面警官で、彼らは内側からドアに寄りかかり、誰も入って来られないようにしていたが、興奮した暴徒が窓を叩き破り、バスの側面をへこませ、タイヤを引き裂くのを防ぐことはできなかった。…バスへの襲撃は20分も続いた。ようやくアニストンの警官がゆっくり現れたが、バスの傷を調べただけで誰も逮捕しようとしなかった。暴徒のメンバーと少し話したあと、警官はバスが通れるよう道を空けさせ、運転手にターミナルから出るように手で合図をした。

パトカーはボコボコにされたバスを町の境界線まで護衛したが、そこで引き返していった。バスには3、40台の車と小型トラックが長い列をつくって続き、いつ襲撃が再開されてもおかしくない状態だった。…切り裂かれたタイヤの二つがとうとうパンクしたとき、運転手は道路の脇にバスを停車させる他なかった。

すぐに暴徒がバスを囲むと、バスを揺らして転覆させようとした。…誰かが割れた窓に燃えたぼろきれの束を投げ込み、座席に火をつけた。「わたしたちを焼き殺すつもりだわ!」女性ライダーの1人が叫んだ。バスの中はあっという間に濃い黒煙で満たされ、ライダーたちは息を吸おうと窓から這い出そうとした。すると暴徒たちは前のドアを押さえ、「奴らを生きのまま焼き殺せ!」と叫んだが、燃料タンクが爆発したため彼らも後退せざるを得なかった。その際にバスの中に残っていたライダーたちはドアから道路脇の芝生の上に飛び出した。

フリーダム・ライダーが乗るバスが

襲撃されている写真

州際間の交通機関は、州を越えて運営されていたため、連邦政府の管轄であった。北部ではどんな人種でも、バスや列車のどこでも好きな座席に座ることが許されていたが、南部では座席の分離が行われ、黒人はバスのうしろに座らなければならなかった。フリーダム・ライダーのリーダーはこうした深南部への旅行であえて危機的状況を生み出し、連邦政府が動かざるを得ない状況を作りだそうとした。警察は事前にKKKと打ち合わせており、襲撃から数十分は出動しない取り決めを交わしており、アラバマ州知事も「面倒を起こそうとしてよそまで出かけていけば、こういう結果になるのは当然」と語った。襲撃の様子がテレビに放映されるとアメリカの市民が人種に関係なくバスに座る権利を命がけで勝ち取ろうとしていることに人々が嫌でも気づかされる結果となった。ケネディ大統領は1963年6月、テレビ放送を通じて、すべての公共施設での人種差別を禁止する公民権法を議会に提出することを表明した。